

によると、震央付近で最大 20cm 程度の「衛星に近づく」地殻変動が検出され、過去最大級の地殻変動があったとのこと。

これらのデータから気象庁は「一連の地震活動で最大の地震」としています。

気象庁によると、石川県で「震度 6 強」の揺れを（七尾市や輪島市などで）観測したのは、2007 年 3 月 25 日に能登半島沖を震源とする M6.9 の「能登半島地震」以来となります。

石川県能登地方では「震度 6 強」の揺れを観測する地震が発生したあと、同日の午後 9 時 58 分頃、珠洲市で「震度 5 強」の揺れを観測する地震があり、震源地は石川県能登地方、震源の深さは 14km、M5.9 と推定されました。

その後も地震が相次ぎ、6 日午前 0 時までには震度 1 以上を 42 回、珠洲市では午前 0 時までには震度 3 以上を 10 回、観測されています。

2. 被害状況について

石川県珠洲市によると、市内の正院町で 65 歳の男性がはしごから転落して死亡し、2 棟の住宅が倒壊して各住宅で 1 人ずつが下敷きになり、消防に救助されました。

救助されたのは 70 代と 80 代の女性で、正院町の正院地区にある「2 階建て木造住宅」の 1 階部分が崩れ、2 階部分が地面に落ちていました。

重軽傷者は、富山県の 1 人を含む計 37 人となりました（5 月 10 日現在）。

石川県は 10 日、能登地方の最大震度 6 強を観測した地震で、少なくとも県内の建物 593 棟で被害を確認し、うち住宅は全壊 15 棟、半壊 13 棟、一部破損 514 棟と発表しました。

県では二次災害を防ぐため、珠洲市の 1747 棟を対象に実施した 9 日時点の応急危険度判定の結果として、249 棟が「危険」、398 棟が「要注意」、その他は問題なしと発表しました。

3. 能登地方の地震活動について

気象庁によると、能登地方は 2018 年ごろから地震回数が増え始め、2020 年 12 月からは地震活動が活発化していました。

2020 年 12 月から 2023 年 5 月 6 日午後 4 時までには「震度 1 以上」の地震を 365 回観測し、このうち「震度 3 以上」だけでも 57 回を数えます。

地震活動は、2021 年 7 月頃からさらに激しくなり、9 月 16 日に M5.1、最大震度 5 弱、2022 年 6 月 19 日に M5.4、最大震度 6 弱の地震が発生しています。

地震調査委員会によると、2018 年以降の一連の地震のほとんどは今回の大きな地震の震央を中心に東西、南西それぞれ約 15km の範囲で発生しているとのこと。

この一連の地震以外に、1729 年には M6.6~7.0、1799 年、1892 年、1933 年、2007 年にも

M6 級の地震を観測しています。

2007 年 3 月には、M6.9 の「能登半島地震」が発生し、1 人が亡くなったほか、3 万棟以上の建物が被害を受けました。

京都大学防災研究所の吉村令慧教授や金沢大学、兵庫県立大学らの研究グループは能登半島北東部の地震活動の活発化を受けて、2021 年 11 月～2022 年 4 月に地下の構造調査を実施していました。

調査の結果、一連の地震活動域やその深部に水などの流体が存在し、一連の地震活動に関与している可能性が高い、との観測結果を 2022 年 10 月に発表しています。

研究グループは、2021 年 11 月に地震活動が活発な地域の地表面に計 32 か所に地電流や地磁気の観測装置を設置し、2022 年 4 月までの間に観測を続けました。

取得したデータを解析し、地表から深さ 20km までの構造を推定した結果、一連の地震活動が始まった南側と、その後活動が活発化した北側に電気を通しやすい領域（良導域）が存在することが判明しました。

地下の良導域は、水などの流体に富む領域で、深部から供給された流体が一連の地震活動に関係している可能性が高いとしています。

断層の間に流体があると、岩盤が滑りやすくなって地震発生のきっかけになるそうです。

水などの流体は、太平洋プレートに含まれる水などがプレートの沈み込みとともに地下深くに取り込まれ、地下でプレートが流れる途中でしみ出した水が深部から上昇し、断層のすき間に入り込むと考えられています。

4. 今後について

政府の地震調査委員会は 6 日、震度 6 強の大きな地震発生を受けて緊急に会合を開催しました。

会合ではさまざまなデータと評価結果が示され、「活動は当分続くと考えられる」「一連の群発地震の震源は能登半島北端の陸域に集中していたが、5 日に M6.5 の大きな地震が発生してからは北側方向に広がった」としています。

2020 年以降の一連の地震活動は 4 つの活動域に分かれ、最近ではやや北側の活動域と東側の活動域で地震活動が活発化していました。

5 日午後 2 時 42 分に発生した最初の M6.5 の地震は東側域北部で、午後 10 時前に発生した M5.9 の地震はやや北側域で発生し、その後活動域はさらに北側の海域に広がりつつあるとのことです。

今後も、浅い地下で同じようなメカニズムの地震が発生するリスクは高いと多くの専門家は指摘しています。

・～・～・～・～・～・～・～・～・～・編集・～・～・～・～・～・～・～・～・

株式会社小林洋行コミュニケーションズ SignalNow デスク
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-15-7
<https://kobayashiyoko-com.jp/sn/>

Copyright 2023 Strategy Corporation.